

ソーシャル・キャピタルを育む現場から

プロによる戦略立案と 地域の力による実践的なまちづくり

新開地まちづくり(NPO) (神戸市)

ナビゲーター

新開地まちづくりNPO
事務局長・実践タウンマネージャー

古田 篤司
Atsushi Furuta



NPOが事務局を担う「まちなみデザイン委」主催のコンペにより選ばれた作品、新開地商店街のシンボルゲート

5月に開催された「新開地音楽祭」には、関西一円から2日間で6万人の観客が集まった。その他にも、ステップアップショップ・プロジェクト「新開地キネマ横丁」や地域の祭りに合わせたミニライブ、アクセサリー・陶器・インテリアガーデニングなどアート関連のミニギャラリーといった多彩なイベントも行われている



再び愛されるまちを取り戻すために

全国各地でTMO(タウンマネージメント機関)を設立し、地域の活性化を図ろうという動きは見られるが、功を奏していない事例も多い。だが、神戸市の新開地で進められているまちづくりはひと味違い、この数年間で、目に見える成果があがっている。

新開地は昭和三〇年代までは、かつて、西の浅草と呼ばれたほど大変な賑わいを誇った。しかし、産業構造の変化とともに訪れる人が減り、いつしか暗く悪いイメージの街となってしまう。それを何とかしたいと商店街の人々が中心となって、昭和五八年にまちづくり団体、新開地周辺地区まちづくり協議会が生まれ、その後、平成一一年、NPO法人「新開地まちづくりNPO」が設立された。

同法人が他と違うのは、地元の人だけでなく、外部から招いたタウンマネージメントの専門家を加えた点だ。

「少し前までの新開地は、『こわいまち』、『汚いまち』と一般の人に思われていました。それを何とかしたいと、市民主導・協働のまちづくりを強力に押し進めるため、常時まちづくりのことを考えている私たちが必要でした」と、今回のナビゲーターである古田事務局長は説明する。「単に交通の利便がよから住むというのではなく、『地域コミュニティの再構築』を目標として、『新開地に住みたい』という魅力を出せるようなまちづくりを進めてきました」。

単なるイベント屋にまちおこしを依頼し、失

敗している例は、枚挙にいとまがない。戦略的なまちづくりを行うためには、「現場に軸足を置いたまちづくり事業のプロ」が必要である。

「当法人では、専門性を持った『まちづくり職人』や、事業や取り組みに長けた人」をスタッフとして抱え、親子ほど年齢差のある地元役員さんと常にコミュニケーションを取りながら、事業を進めています」と古田事務局長。確かに、ちゃんとした戦略とぶれない方向性を持った展開を進めれば、おのずと人が集まり、またコミュニティが生まれる。その実証例が、新開地と言える。

(文責・CEL編集室)



震災により倒壊した比較的大きな建物の跡地が未利用地になっている。「これらについても積極的にプランニング提案やプロモーション活動を行っていききたい」と古田事務局長(写真は空き地を利用して、共同で作業することを目的に設けられた畑。ここでは収穫祭なども行われる)



まちに愛着を持ってもらおうと、湊川公園から新開地本通りの要所要所で花が植えられた花壇などが設けられている(写真は湊川公園の花壇でボランティアの手で行われた花植え)



震災の復興を機会に、暗かったアーケードを撤去し、通りのデザインなども一新して生まれ変わった新開地本通り

イベント時には、自らバーベキューの手伝いもするナビゲーターの古田篤司さん

NPO法人「新開地まちづくりNPO」

〒652-0811 神戸市兵庫区新開地3-3-11
TEL 078(576)1218 FAX 078(576)1219
URL <http://www.shinkaichi.or.jp/>
(まちの情報サイト「新開地FAN」)
<http://np0.shinkaichi.or.jp/>
(新開地まちづくりNPOホームページ)